

第 8 回日本消化管 Virtual Reality 学会を開催して

小樽掖済会病院 平野雄士

皆さま、こんにちは。前回の案内に引き続き今回は「第 8 回日本消化管 Virtual Reality 学会」の開催報告です。

2026 年 3 月 20 日（金・春分の日）、場所は小樽グランドパークホテル。当日の天気は雪の予報もありましたが、雪が降ることはなく、本学会としては過去最大の 83 名の会員を集め開催されました。参加いただいた皆様、お手伝いをしていただいた皆様ありがとうございました（Fig.1 開会挨拶）。

あらましについては前回報告したので、今回はあまり日の当たることの少ない一般演題に対する私の所感を中心に学会を振り返りたいと思います。

プログラムは一般演題の 1.炭酸ガス注入器の送気排気設定に関する演題からスタートです。送気設定は大腸 CT の重要なパラメータの一つで送気時間に影響するはずですが、CT 装置の撮影準備に要する時間が長く、有意な差として現れなかったようです。まさしくこれが送気時間の検討を難しくしている原因です。鎮痙剤の使用は優位に送気時間に影響したそうです。次の 2.撮影手技の苦痛度に与える影響、また次の 3.鎮痙剤使用の有無による画像評価については今までの報告に対する再評価的な内容であり、手技を見直すいい機会になります。過去の報告に対する検証はとても重要ですね。次は 4.銀フィルター使用時の被ばく線量と X 線出力の検討です。CTC 領域でも 30%程度の被ばく低減が図られ、腹部単純 XP2 方向撮影と大差ないところまできているようです。続いての 5.DECT を用いた併存症例の検討では、腫瘍の質的診断の研究が進められています。Dual Energy が重要な要素になりそうです。その次の 6.SSL のバリウム付着所見についての演題でも症例による特殊な所見を捉えるといった質的診断に一步踏み込んだ内容でした。両者ともにひときわ会場の注目を集めていました。

一般演題の後半に入ります。7.側方発育型腫瘍の自動検出に関する

演題です。高低差が無く通常の CTC 読影でも検出率が低いとされる側方発育型腫瘍を AI の自動検出を用いてどこまで検出率を高めていけるかを検討しています。今回は腸管パスに沿った短軸の MPR 画像 (Short-axis MPR : Sa-MPR) を用いて検出率を高めており、そろそろワークステーションに実装してもいいようなレベルになってきています。次の演題 8.「CTC のスカウト画像による補助具検出システムの開発」は AI を用いて補助具 (腹臥位マット) の位置をスキャン画像から検出して、補助具の配置ミスによる拡張不良を失くそうというという試みです。AI の使い方はいろいろあるので、どう発展していくか楽しみです。

9.「2 管球 CT を使用した写實的仮想内視鏡画像による Virtual Realty 胃検査システムの構築」は 2 管球ハイピッチスキャンの高い時間分解能で収集した画像から写實的 VG 画像を作成し、立体視ができるように動画作成を行い、VR ゴーグルを用いて再生するという観察システムの演題です。本学会の消化管 Virtual Realty の名称を包括した最先端の内容でもあるため臨床応用と共に継続的な研究が期待されます。実機も展示されていました。最後は 10.シネ MRI を用いて健常者の消化管壁運動を解析した演題です。そうです、大腸 CT だけの学会ではありません。食後の動きにおいて、大腸の左側の壁が大きく動いていて、全大腸が同じ動きをするわけではないことが良くわかりました。勉強になりました。

このように一般演題も興味深い内容ばかりでした。今回は演題数も想定より多く、この分野への関心の高まりを感じました。

プログラムはその後珠玉の 3 講演に入ります。理事長講演 (山野泰穂先生) は「大腸内視鏡診断の着眼点—VR 世界における GameChanger を求めて—」、ランチョンセミナーは小倉敏裕先生の「CTC パイオニアの考え方」、特別講演の市川勝弘先生は「大腸 CT における可視化技術の新たな展開」、とどれも目が離せない素晴らしい講演でした。ミニシンポジウム「大腸 CT の新たな展開」では、岡本先生より「無下剤 CTC システム」、満崎先生より「大腸 CT の現状と将来」について提言をいただき、会場の先生たちと共に活発な討論となりました。時間がちょっと足りなかったのが反省点でした。

最後の症例検討では、診療放射線技師、放射線科医、内視鏡医の病変の見方の違いとそれぞれの診断と病理との一致について病理医の市原真先生（旭川医大）の解説により楽しく進めていただきました。

診療放射線技師として本会の会長を務めさせて頂くことはとても光栄なことなのでこの一年間はずっと緊張していましたが、相当に中身の詰まった学会となり、あっという間のとても楽しい時間でした。参加者にも満足して頂けたようだったので、ほっとしています。

ところで、当日参加者には鶴丸先生（九大）デザインのアンブレラチャームが配布されました（Fig.2 ノベルティグッズ）。カッコよく、可愛くてセンス抜群です。その鶴丸先生が次回の会長です。今回の小樽が良かったのか（？）、次回は佐賀県で行うことになりました。鶴丸先生の地元だそうです。私も佐賀には行ったことが無いのでとても楽しみです。今回小樽に参加できなかった方も、来年3月の佐賀への旅行計画を立て始めてください。きっと、今年よりもまた進化したVirtual な世界が楽しめると思います。（完）



Fig1 緊張の開会挨拶



Fig.2 配布されたアンブレラチャーム（デザインが素晴らしい）